

全時間帯での視聴率アップ

在京キー局で唯一、全日・ゴールデン・プライム・ノンプライムのすべての時間帯において、前期比で視聴率をアップさせることができました。

2010年3月期の視聴率は、他局が軒並み前期比で減少しているなか、日本テレビは全時間帯でアップさせることができました。これは、タイムテーブルの継続的なメンテナンスを適切に実行できた成果だと思います。期待した結果が出ている番組については、良い

状態が長く続くような施策や陳腐化しないような施策を、逆に厳しい結果の番組については、改編期を待たずに思い切って新たなコンテンツへ切り替えるなど果敢に取り組みました。また、日本PTA全国協議会が2010年5月14日に発表した調査では、保護者が子供に見せたいテレビ番組の1位に「世界一受けたい授業」、4位に「天才!志村どうぶつ園」が選ばれるなど、番組の質の向上という面においても着実に成果を挙げています。



編成局長
石澤 顕

スポットシェアの伸長

タイムテーブルの改革が広告主・広告会社に浸透し、スポットシェアは他局を大幅に上回る前期比1.1%アップを記録しました。



2010年3月期のスポット広告収入は前期比0.9%減となりましたが、スポットシェアは、年後半からの市況回復を他局に先駆けて収益に結びつけることができた結果、前期比1.1%増の24.2%とシェア拡大を実現することができました。これは、日本テレビが継続的に進めているタイムテーブルの改革が成果を挙げ、私たちがコアターゲットとする13歳から49歳の視聴者を今まで以上に獲得したことにより、スポット広告の効果的媒体として日本テレビの商品力を広告主や広告会社に高く評価いただいたものだと考えています。今後もタイムテーブルの改革や新たな取り組みを進めるとともに、広告主や広告会社との関係を密にし、更なる成長を目指していきます。

執行役員
営業局長
丸山 公夫



映画事業の躍進

グループ各社の連携を高めることで企画力・製作力を強化した結果、4年連続で増収となり、放送外事業の拡大に大きく貢献しました。



2010年3月期の映画事業は、「20世紀少年＜最終章＞ぼくらの旗」が興行収入44億円を記録したほか、人気ドラマを映画化した「ごくせん THE MOVIE」や日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞を受賞した「サマーウォーズ」など続々とヒット作品を生み出すことができました。映画事業においては、数年前より、すでに企画が立ち上がっている作品への出資や洋画の興行権購入という形態から、自社で企画・製作を行うように方針転換を図っており、4年連続の増収は、グループ各社の特長や強みを結集させた成果が表れたものと確信しています。また、通信販売事業が前期比26.3%の増収、イベント事業が前期比13.4%の増収となり、映画事業とともに事業拡大に貢献しました。

執行役員
コンテンツ事業局長
宮崎 洋

市場不況からいち早く脱出

当期は営業損失16億円となりましたが、DVD、CD市場の不況が加速するなか、業界でもいち早くコストカットを進め、営業損失拡大を食い止めました。

バップは、日本テレビが制作した番組や映画コンテンツのDVDおよびオリジナルソフトの制作・販売、音楽CD制作・販売を手掛けるグループ中核企業です。

2010年3月期は、オーディオ部門（CD）の発売タイトル数が大幅に減少したことや、映画DVDの印税率アップがあったこと、また、それに伴い印税償却額が大幅に増加したことから原価率が上がり、大幅減益となりました。

株式会社バップ
代表取締役社長
平井 文宏

2010年3月期売上高

222億円

詳細は

34ページ



売上高の増加

テレビ、インターネット、小売りを融合させた新たなビジネスモデルを駆使し、当期の売上高は25億円となり、増収増益を達成しました。

2010年3月期売上高

25億円

詳細は

35ページ



日テレ7は、2007年に日本テレビ、(株)セブン&アイ・ホールディングス、(株)電通という、それぞれ放送業界・流通業界・広告業界を代表する企業の出資により設立された異色の会社です。商品開発事業、ショッピングポータルサイト事業、広告・マーケティング事業を手掛けており、2010年3月期は、商品開発事業における商品開発・商品発掘ビジネスが好調に推移したことにより、全体で25億円を売り上げ、増収増益を達成することができました。

株式会社日テレ7
代表取締役社長
白岩 裕之